

研究評価委員会におけるコメント

第27回研究評価委員会（平成22年11月26日開催）に諮り、了承された。研究評価委員会から以下のコメントが出された。

イットリウム系超電導電力機器技術開発（中間評価）

- 最初の実証／実用化は国内に拘泥する必要は無く、新技術導入に積極的に資金を有する外国でも良いのではないか。海外で早期に実証／実用化し、その実績を踏まえて日本へ戻すような進め方も検討すべき。

立体構造新機能集積回路（ドリームチップ）技術開発（中間評価）

- 海外の競合状況から、二、三年後には世界の非常に激しい競争領域になることを考慮すると、「多機能高密度三次元集積化技術」の開発項目に、他の開発項目で取り上げている関連する三次元集積化の要素技術も集約し、そこにもっと集中化してリソースを投入し、あと2年で試作レベルまでいけるぐらいのポテンシャルを持ってリリースできるように早いペースで進めるべきである。

水素先端科学基礎研究事業（中間評価）

- 産業界が将来欲しいような情報をきちんと出すという方向にまだなかなか向いていない。産業界との交流を密にし、彼らのニーズを的確に捉え、何が情報として有用なものとして産業界に提示ができるのかということを含めて、残りのプロジェクト期間を進めていただきたい。

異分野融合型次世代デバイス製造技術開発プロジェクト（中間評価）

- 異分野融合技術として、例えばバイオのところでは、工学系の発想とか技術を使えば、細胞を自由に並べられるなどいろいろなことができるというところが研究成果として評価されているが、これが実際にどう使えるかというところが見えない。大きな流れで基盤技術を確立するために、達成目標の定量的記述と目標とする機能の具体的記述が望まれる。